# DLd 療法(1~2 クール)

# 血液内科

再発または難治性の多発性骨髄腫

ID 患者名 体重

初回・継続(前回 / )

kg

★体表面積不要



盯

## ★投与量

# 計算値

 ダラザレックス
 16mg/kg
 mg 点滴静注
 Day1、8、15、22

レブラミド 25mg mg 内服 Day1~21

レナデックス錠20mg/bodymg内服ダラザレックス投与後Day1、8、15、22デカドロン注20mg/bodymg静注ダラザレックス投与前Day1、8、15、22

### ★ 点滴スケジュール

投与 1~3 時間前	デカドロン注	生食 1000mL(初回)、500mL(以降)	レナデックス錠
		+ダラザレックス	
プレメディ	静注		内服

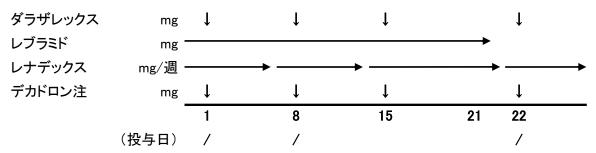
### ★ 投与スケジュール

●1クール:28 日

◎現在 クール目

次回

処方用量



### ★ 注意事項

・投与時に infusion reaction に注意する必要あり、プレメディ(解熱鎮痛薬・抗ヒスタミン薬・ステロイドなど)を行う。抗ロイコトリエン薬の追加併用が良いとのでデータがある。

特有の症状として呼吸器症状(鼻閉・喘鳴・呼吸困難など)が起きやすい。

投与開始後約90分で生じやすい。

・投与回数、副作用発現により投与速度が異なるため注意。

投与時期	希釈後の	投与開始からの投与速度(mL/時間)				
	総量	0~1 時間	1~2 時間	2~3 時間	3時間~	
初回投与	1000mL	<b>E</b> 0	100	150	200	
2回目	500mL <sup>**1</sup>	50				
3回目以降	500mL	100**2	150	200		

※1: 初回投与開始時から3時間以内に infusion reaction が認められなかった場合に 500mL で開始出来る。

※2:初回・2回目投与時に最終速度が 100ml/hr 以上で infusion reaction が認められなかった場合に 100mL/hr から開始出来る。

- ・不規則抗体検査にて偽陽性になることがある。投与後 6 ヶ月間は影響あるため、投与前に不規則抗体スクリーニング検査を行う必要あり。投与患者への患者用カードがある。
- ・グレード3,4の副作用として好中球減少症がおきやすい。
- ・レブラミドは病状・毒性によって減量する事がある。
- ・デキサメタゾン注射は内服で代替出来る。
- ・投与時にフィルターを通す必要あり。(異物の混注・凝集した抗体投与を防ぐため)